

## 県展に本校最多19名が入選・入賞!

9月14日(日)～28日(日)にかけて、長崎県美術館において、**第59回 長崎県美術展覧会公募展(長崎県展)**が開催されました。本校から絵画、デザイン、工芸の各部門に33点出品し、19名が入選・入賞を果たすことができました。展覧会の入選率は、どの部門においても約50%であり、高校生にとっては入選すること自体が大きな目標となる大会です。

特に工芸部門では、窯業の専門家の方々が多く出品する中で、4年ぶりに入選者を出すことができました。また、今回初出品となった絵画部門(油絵)では、一般の方に混じって2名、入選することができました。さらに、デザイン部門においては、1年生2名を含む、4名が入賞することができました。19名の入選・入賞者数は、本校過去最多であり、県内の高校でも最多の数となります。本校のホームページにも、入賞・入選作品の一部を掲載しております。

9月19日(金)に美術・工芸科1年20名と陶芸デザインコース2年生16名、その他作品出品者6名の32名で長崎県展の見学会を行いました。作品の多様な表現や技術の高さに、参加した生徒たちは驚いていました。会場で各部門の感想を記入しながら鑑賞しました。いろいろな面で勉強になった見学会でした。

今年度、美術・工芸科が新設され、全員の生徒が美術部か陶芸部に在籍しています。2・3年生が中心となって、夏休み期間中、ほぼ毎日作品制作に励んでいました。今回、残念ながら入選を逃した生徒たちも、来年度の出品に向けて、また、12月に行われる高校美術展へ向けて、気持ちを新たに作品制作に励んでいます。いろいろな面で、サポートを頂いていることを胸に、今後も日々制作活動に励ませていきたいと思っております。(美術科、美術・工芸科主任 岩永 聡志)



1年5組 太田龍雅「雅」



1年5組 西村 夏希「時のうつろい」

## 10月の行事予定

- 10月 1日(水)～3日(金) 中間考査
- 10月 1日(水) PTA・母の会理事会・役員会
- 10月 8日(水) 2年陶芸教育(伝統工芸師招聘)中高連絡協議会
- 10月10日(金) **クリーンアップ波佐見(ボランティア清掃活動)**  
ステキなババママ未来体感
- 10月11日(土) 高齢者への交通安全啓発活動
- 10月15日(水) 民間講師招聘事業(商業科)
- 10月18日(土) オープンスクール
- 10月20日(月) 代休
- 10月23日(木) 月曜日の時間割
- 10月24日(金) **文化祭(芸術鑑賞会)**
- 10月25日(土) **文化祭(展示・発表・バザー)**



鬼木の棚田

〈校訓〉 自律・積極・究理



# 波高通信



〈スローガン〉 人間性を育み、仲間を支え、個性を磨く

第6号 平成26年9月30日発行

### 校長室より

### 「陶心」を支えに



皆さんは、陶心館の「陶心」とはどういう意味か考えたことがありますか。「陶心」とは、焼きものの制作・鑑賞の過程で培われる心のことです。この言葉には、本校で学ぶ皆さんに陶芸を通して豊かな人間性を伸ばして欲しいという願いが込められています。

まず、本校の「陶芸教育」の歩みを簡単に振り返ってみたいと思います。昭和58年、本校に陶芸室が設置され、部活動などでの焼きもの作りが始まりました。一方、波佐見町では、昭和62年ごろから、本校にデザイン科新設の気運が高まり、本校への地域の皆様の期待は大きなものとなってきました。(この時は、学科新設はかないませんでした)

このような中、平成2年、全校生徒に対する陶芸教育が本格的に始まりました。そこには、「波佐見焼きと三河内焼きの里を校区にもつ高校として、焼きもの制作と鑑賞を通して郷土に根ざした人づくりを地道に推進していこう」という、本校第5代貞松校長の強い思いがありました。当時指導していただいた方に、現波佐見町長の一瀬政太氏や伝統工芸士の立井清人氏(本校立井先生のお父様)がおられます。以来、平成4年に陶心館完成、平成7年に陶芸デザインコース設置及び穴窯完成、平成26年に美術・工芸科新設と着実にその歩みを進めてきました。

さて、焼きものの工程には、大きく、「土練り⇒成形⇒釉薬がけ⇒焼成」の4工程がありますが、この各工程に、次のような「4つの心」を対応させることができるのではないかと思います。

- ①土練り=授業、部活動や学校行事を通して、自分自身の精神的な土台を作ろうとする心
- ②成形=人との関わりを通して、社会性やたくましい精神力を身に付けようとする心
- ③釉薬がけ=自分の個性を知り、磨こうとする心
- ④焼成=自信、意欲、目標をもって社会に主体的に関わっていこうとする心

本校は「人は焼きものを作り、焼きものは人を創る」という陶芸教育の精神を、学校経営の柱に据えています。本校の歩みの中に脈々と受け継がれている精神こそが、この「4つの心」をまとめた「陶心」なのです。「陶心」=「波高精神」=「本校で身に付けるべき心」ということもできると思います。

この厳しい4工程を経てそれでもなお形を残したものが「うつわ」として完成します。制作過程で様々な試練を乗り越えた「うつわ」は、だからこそ美しく、多くの心を受け入れ、和ませながら、置かれたところで豊かな創造を続けることができるのです。

3年生の就職試験結果の通知が届き始めました。合格した皆さん、よかったですね。おめでとう。一方、不合格になった人は、がっかりしたことでしょう。しかし、今こそ試練を乗り越えるときです。「その会社には縁がなかった」と割り切り、気持ちを切り替えて次の受験先を探し、準備にかかりましょう。必ずあなたに合った就職先が見つかります。本校で身に付けた「陶心」を支えに、あせらず、じっくり取り組んでください。そして、一人ひとりがそれぞれの「うつわ」を完成させてください。

第59回長崎県美術展覧会公募展に、本校では過去最多となる19名が、入賞・入選しました。暑い夏の頑張りが見事に実りました。「『陶心』が実った」といえるかもしれません。

(野田 定延)



## 千綿中PTA本校訪問

8月28日(木)、千綿中学校PTA16名の皆様が本校を訪問されました。学校の概要説明の後、千綿中PTAOBの山川母の会会長がスピーチを行いました。山川会長の、我が子を思う真心あふれるスピーチにはとても重みがありました。千綿中PTAの方々も熱心に聞いておられました。その後、PTA一行は3年生陶芸デザインコースの「課題研究」の授業を参観し、デザイン・絵画・陶芸に分かれた少人数指導の様子を興味深く見学されました。1時間の短い訪問でしたが、千綿中PTAの皆様にお子様の進路選択のご参考にさせていただけたらと思います。(教務主任 安達 健)



## 体育祭

9月7日(日)、好天に恵まれて第34回体育祭が開催され、多数のご来賓、地域住民の方々、保護者の皆様にご観覧いただきました。今年は、「誇り～我が波佐見という名を胸に」をスローガンに、実行委員長の坂中佳樹君(3年)を中心に、生徒が主体となって、準備と運営を行いました。早朝から多数の皆様にご声援と拍手をいただき、白熱した競技と演技が展開されて、体育祭を無事に終了することができました。(体育科主任 本田 球見子)



## 環境整備活動

8月31日(日)、PTA・母の会主催で、体育祭前に校内の除草作業を行いました。残暑厳しい中、保護者・教職員・生徒が100名以上集まり、汗をぬぐいました。自前の草刈り機を準備された保護者の方は、実に手際よく、みるみるうちに草が刈り取られていきました。とりわけ、山口PTA会長は、プロ顔負けの刈り技を披露しました。また、野球部、サッカー部、究理部の諸君や、部活動に登校してきた生徒が懸命に手伝ってくれました。除草以外に、溝にたまった泥を掻き出すなどの重労働もありましたが、若い高校生には平気なようでした。校内のあちらこちらで高校生諸君が頼もしく見える光景が見られました。約2時間余りにわたる作業で、すっかり整備された波佐見高校。参加者は、疲労もありましたが(特に教職員?)、充実感あふれる様子で、日曜日のひとときを終えました。

お忙しい中、お集まりいただきました保護者の皆様、先生方、波高生諸君、ありがとうございました。(教務主任 安達 健)



## 健康講話

9月17日(水)に、ひろ心内科クリニックの山之内寛嗣院長をお招きし、「アレルギー疾患と皮膚疾患」をテーマに講話をいただきました。男女を問わずおしゃれに興味がある年頃にもかかわらず、その怖さを知らない生徒にとって、とても有意義な講話でした。講話を聴いた1年生男子は、「オシャレ障害という言葉は初めて聞き、ピアス、ネックレス、タトゥーやビュウラーなど様々なものに原因があることを知りました。これからの生活に生かしていこうと思います」と感想を述べました。(保健主事 得永 健)



## 就職試験受験者激励会

9月12日(金)に就職希望者約70名に対して、野田校長、田尻学年主任より激励の言葉がありました。今年は新たに山口PTA会長、山川母の会会長からも激励をいただきました。親としての立場、企業側からの立場の話もしていただき、話を聞く生徒の真剣な眼差しは、やがて来るであろう多数の「吉報」を予感させるものでした。

現在就職戦線まっただ中ですが、9月30日現在の就職試験の合格率は約77%となりました。昨年度の57.9%を上回る合格状況となっています。



また、9月9日(火)には、2学期の補習開始にあたり、1・2年生の補習受講者の集会を行いました。学期の節目を一つの区切りとして、進路希望を再度確認し、基礎学力の充実と進学の実現を達成するための学力の充実を目指して取り組むようにと話をしました。やはり補習を希望するという向上心を持った生徒の集団でしたので、しっかりと話を聞いていました。

(進路指導主事 宮崎 恵)

## 3年生の進路希望状況

(平成26年9月30日現在)

国公立大学…	普通科 4	商業科 3	計 7 (昨年度4)
私立大学…	普通科 12	商業科 3	計 15 (12)
短期大学…	普通科 6	商業科 3	計 9 (8)
看護医療専門学校…	普通科 10	商業科 2	計 12 (15)
他の専門学校他…	普通科 27	商業科 3	計 30 (36)
県内就職…	普通科 17	商業科 12	計 29 (46)
県外就職…	普通科 16	商業科 7	計 23 (11)
就職進学…	普通科 3	商業科 2	計 5 (2)
公務員…	普通科 7	商業科 1	計 8 (2)
縁故他…	普通科 6	商業科 0	計 6 (9)

大学進学希望者が昨年よりも増加しています。また、県内就職希望が減り、県外就職希望が倍増しました。県外の企業に果敢にチャレンジしようという姿勢がうかがえます。就職試験は始まっていますが、ほとんどの企業で学科試験が課されます。進学希望者はもちろん、就職希望者も基礎学力は極めて重要です。学校を休まず、真剣な姿勢で授業に臨んでください。(進路指導主事 宮崎 恵)

## 人生の達人セミナー

「挑戦～今私にできること～」

9月24日(水)に、世界トップレベルの車椅子アスリートとしてご活躍中の副島正純氏を講師としてお招きして「心に響く人生の達人セミナー」を開催しました。副島氏は作業中の事故で脊髄を損傷され、車椅子生活となられました。自己紹介をされた後、競技用車椅子の重量や値段当てをされながら、和やかな雰囲気の中で講演が始まりました。ご自身に降りかかった突然の出来事で、一時は何もかも諦めそうになったとのことでしたが、自分の今置かれている状況を「諦める」ことなく「受け入れる」ことで、少しずつ前向きに頑張れるようになったとのことでした。事故前の高校時代や若いころの映像を交えながら、お話をされたことで生徒たちは興味深く熱心に聞いていました。最後に生徒に対して、諦めることなく「自分の人生を自分らしく生きる」「自分からできること、自分の居場所を見つけてほしい」との言葉で講演を終えられました。生徒の一人は、「予想もしていない事故にあって下半身が動かなくなったら、私には絶望感しか残りませんが、お話を聞いていて、自分の未来はそこで終わりではないということ、諦めたら本当にそこで終わりだということ。その現状から自分できることが一番大事だと思いました」と感想を語りました。また別の生徒は、「これから、いつどんなことが起きてどうなるかわからないので、悔いのない人生を歩み、いつ車椅子生活になっても、明るくいられるよう、一日一日を大事に生きていこうと思います」と語りました。

(教育相談研究部 大小瀬 泉子)

